

「新聞比較」と「壁新聞づくり」を通して批判的思考力の育成 単元「メディアの情報を読み解く」

宮崎県立宮崎大宮高等学校
教諭 山崎 俊一

1. はじめに

本校文科情報科は、平成20年から「特色ある教育課程等実践研究推進校」として、「探究」（総合的な学習の時間）を中心とした授業研究を行ってきた。「探究」とは、生徒が見いだした「問い」を自ら解決していく課題解決学習である。生徒は一年次で探究活動の基礎となる思考法やスキルを学び、二年次で自分の設定したテーマをゼミナール内で調査・研究し「研究論文集」にまとめる。この探究活動の出発点は、まず自分なりの「問い」を見いだすことであり、その基盤となるのが「批判的思考」といえる。しかし、生徒の多くは教師の説明や文章に書かれていることを鵜呑みにしがちで、自分なりの疑問点や問題意識を持つことに慣れていない。そこで、本実践では、この「批判的思考力」を育成する手段としてNIE活動を位置づけた。

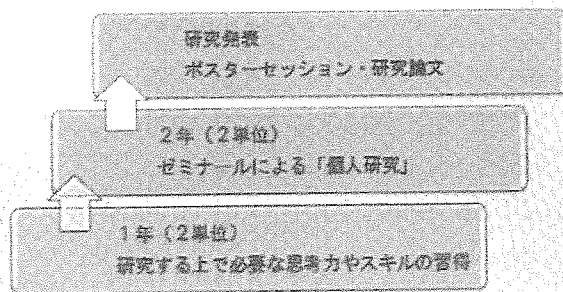
クリティカルシンキングとは、何を信じ、何を行うべきかを判断するための理性的なものの見方、考え方のことである。そこには、真理の探究、公平さ、コミュニケーション力、自己批判、多面的思考などが必要とされる。

そして、批判的思考の具体的なスキルとして、次の六点を挙げている。

- ①情報源を明らかにし、信頼性を判断する。
- ②事実と主張を区別する。
- ③主張されていることが正確かどうかを判断する。
- ④主張の中の歪みや矛盾に気づく。
- ⑤述べられている仮定を理解し、述べられていない仮定を想像する。
- ⑥議論がどの程度の力を持つか判断し、議論によって自分自身で再考する。

2 総合的な学習の時間 「探究」

2年間の授業の流れ（カリキュラム）

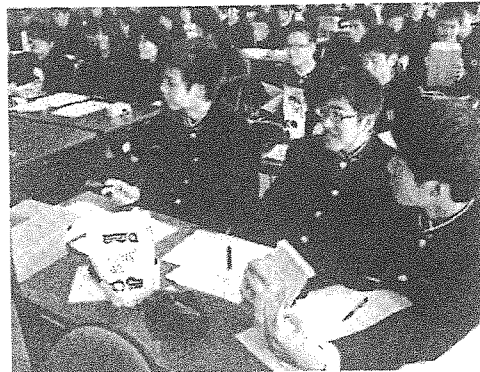


「探究」は自分で課題を見つけ、それを解決していく課題解決学習

2. 「批判的思考力」とは

由井はるみ氏は「批判的思考」（クリティカルシンキング）を次のように定義する^(注1)。

このように批判的思考とは、対象に存在する意味や価値を論理的に考え、一定の基準や根拠をふまえて適切な判断を下す思考過程と捉えることができる。このような思考活動は、「真実とは何か？」を追求していく「探究」の授業では、必須のものといえるだろう。



「宿泊研修」（「探究」のオリエンテーション）生徒は情報を鵜呑みにする傾向がある。

3. 授業の構想

単元 「メディアの情報を読み解く」

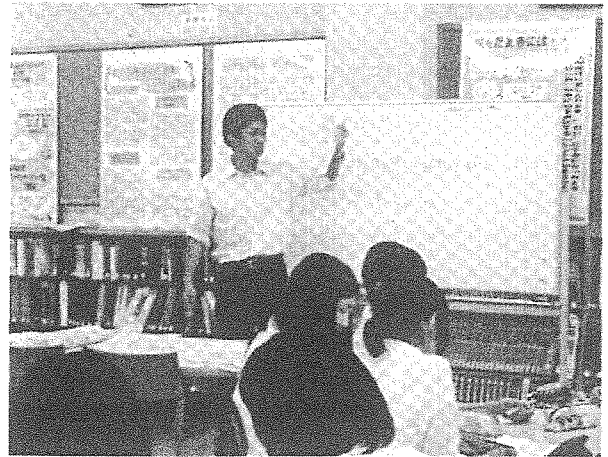
(1) 「批判的思考」をいかに育てるか

しかし、問題は、このような思考法をいかに生徒に身につけさせるかである。

従来の授業は、具体的な批判的思考のスキルを生徒に伝達した上で、それを踏まえて文章を読ませたり、評価させることが多かった。しかし、生徒たちはテキストを「正しく」読むことの訓練はされてきても、テキストの真偽を吟味し、批判的に読むことには慣れていないため、すぐに批判的にものごとを吟味できる生徒は少ない。むしろ、「相手のあらを探す」や「挙げ足を取る」などのマイナスのイメージを持っただけで終わる生徒も多い。

しかし、逆に批判的思考は「真実とは何か」を問う探究的な姿勢があれば、だれでも意識する（できる）ものであり、日常の言語活動や思考活動において潜在的態勢として存在している。それゆえに、授業においては、その潜在的な批評意識を、実際の学習活動の中で意識化・自覚化させた方が効果的だと考えた。例えば、渡部洋一郎氏は、批判的思考は「訓練された人でも相当苦しい作業」であることを認めつつ、その教授法については「思考スキルの構成要素だけを訓練するよりは、ある領域の問題解決過程全体で教授する方が効果が高い」と指摘する^(注2)。単に、スキルを取り立てて伝達するのではなく、実際に問題解決の場を設定し、その中で指導した方がよいという指摘である。

このような授業観を踏まえ、本実践では、①生徒に新聞を作らせることで、生徒の視界を確保し、②その記事の真偽を生徒同士で吟味させることで、生徒の潜在的な批判的思考を意識化させる。③さらにその応用として新聞比較で実践力を育成する授業を提案する。



批判的思考は教師がそのスキルを伝達するだけでは身につかない

(2) 単元の設定

①ねらい

- ・壁新聞づくりや壁新聞批評を通して、発信者における情報の取捨選択を意識化させる。
- ・新聞の比べ読みを通して、複数の情報を比較検討し、その信頼性や妥当性を吟味させる。

②対象

文科情報科1年2クラス（84名）

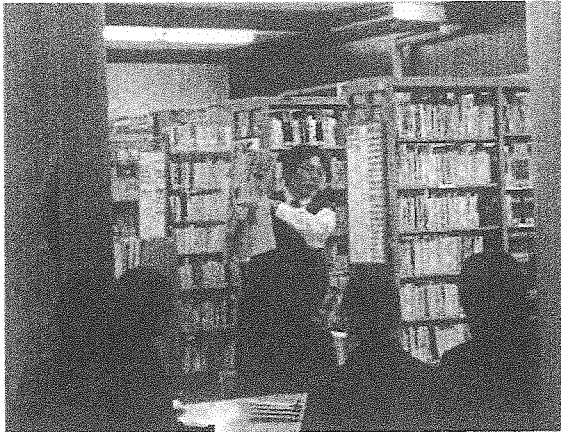
③単元計画

(1) 新聞記事の比較1	1時間
同じ事件の報道のされ方の違いを複数の新聞の比較を通して確認する	
(2) 壁新聞づくり	3時間
グループ（7名）ごとに好きなテーマで壁新聞を作る。	
(3) 壁新聞発表	1時間
クラス内でグループごとの発表をし、クラス代表を選出する。	
(4) 壁新聞を批判的に読む	1時間
クラス代表の新聞（2つ）を「批判的視点」で批評し合う。2クラス合同。	
(5) 新聞記事の比較2	課題
複数の新聞を比較し、事件の報道のされかたの違いをレポートにまとめる。	

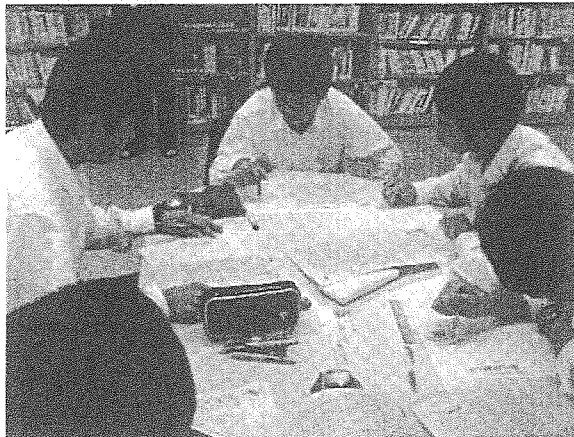
(3)授業の実際

①新聞記事の比較1 5月6日(金)

今年は「大学入試問題ネット投稿流出」について、「朝日新聞」と「宮崎日日新聞」の社説の比較読みをした。「朝日新聞」に比べ「宮日」の方がややきびしめに報道しているのを確認した。



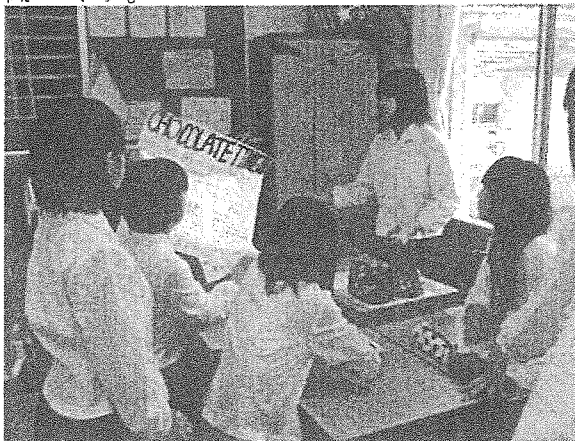
新聞というメディアの特徴を確認



社説の立場の違いをグループで検討

②壁新聞づくり 5月12日(金)

生徒の興味関心に応じてグループごとに壁新聞づくり。



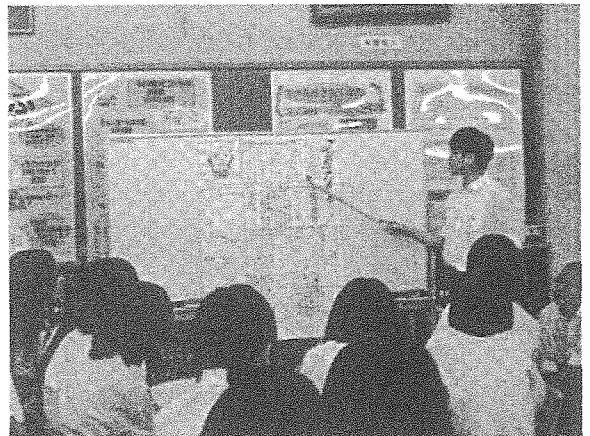
チョコレートについてまとめたグループ

③壁新聞発表 5月18日(金)

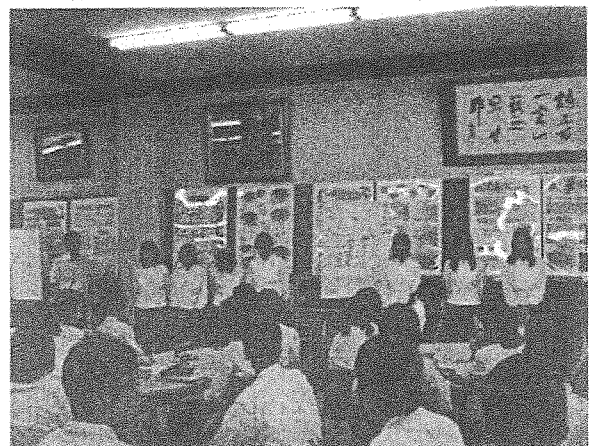
生徒たちが選んだテーマは、タイムリーな話題では「東日本大震災発生2ヶ月」「ビンラディン容疑者殺害の真相は！(2班)」「焼肉店ユッケ食中毒」「AC大解説」、芸能関係は「JK新聞 J-POP (AKB48)」とK-POP (少女時代)、「11の音楽事情」「You tube」、食べ物をあつかった「激戦アイス業界」「チョコレートタイム」、健康やリラクゼーションの「眠眠打破 睡眠不足について」「文情セラピー 癒しについて」など各グループの個性が発揮され、どれも力作ぞろいだった。

④壁新聞を批判的に読む 5月28日(金)

クラス代表は、I級「Justice ビンラディン容疑者殺害報道」とJ級「AC大解説 公共広告」が選出され発表。特にI級のKくんは「正義」の辞書的意味を踏まえながら、今回の出来事を分析し、ものごとの多面性や価値観の多様性を具体的に指摘していた。



I級代表「ビンラディン容疑者殺害報道」



J級代表 「AC大解説 公共広告」

生徒の選ぶテーマは高校生の興味関心を反映しているものが多い。

⑤新聞記事の比較2

生徒の書いたレポート J級 Mさん

六月二日、菅首相が「一定のめどがついた段階で退陣する」と辞意表明をした後、衆議院本会議で内閣不信任案が反対多数で否決された。

この一連の騒動について「朝日新聞」「宮崎日日新聞」両紙が「不毛な政争に区切りを」「自分本位の政争劇は収束を」と一刻も早い収束を望んでいることを述べている。また、首相が身を引く決断をしたことについても、「やむをえなかった」「重く受け止めたい」とし、不信任案が可決された際の懸念を挙げた上でその決断への賛成を示している。(中略)

これらは両新聞に共通して見られた意見であるが、両者の異なった視点での記述もあった。まず「朝日新聞」は、具体的に「小沢氏を除名せよ」、「政権移行に向けた工程表を示すこと」と菅首相に具体的な注文を二つ挙げている。また、民主党には「世代交代」を、自民・公明両党にも退陣を決意した菅首相への協力を促した。対して「宮崎日日新聞」は、今回の騒動について詳しく述べており、今後の政治運営については「最後までひた向きに復興に取り組むべきだ。与野党双方には『政治は一体何をしているのか』と国民があきれ返らないよう自省を促したい」という内容にとどまった。

両紙共に今回の騒動を批判し、それに伴う菅首相の辞意表明を受容する内容だが、「朝日新聞」は、首相が辞任した後の政治にも焦点を当てていた。どれだけ政治家が争い、首相が交代しても、被災した人々の苦しい生活は続いている。そのことをしっかりと胸に刻み、明日の日本についてを議論してほしいと思う。

4. おわりに

新聞を学習材として検討すると、新聞の記事は、正しい日本語で信頼性ある内容が書かれている上に、新聞社によって「立場の違い」や「ゆれ」もあるため、「真実は何か？」と批判的な思考活動をさせる上で、きわめて有効な学習材であった。今回の授業では「新聞比較」と「壁新聞づくり」を行ったが、情報の受信者（読み手）と発信者（書き手）の両方を経験させることで、新聞の書き手が「何を報道し」「何を報道しないのか」という取捨選択を意識化させることができた。そしてこの意識こそが、情報の真偽を吟味する力につながる。

「本当にそうなのか？」と疑う行為は、物事の本質を多角的に見極めようとする知的営みである。このNIEを通して、情報を安易に鵜呑みにするのではなく、情報を吟味しながら相対化する「しなやかさ」を育成できればと思っている。

〈引用文献〉

- (1) 由井はるみ「なぜ、今、メディアリテラシー教育が必要か」『国語科でできるメディアリテラシー学習』由井はるみ編（2002年 明治図書）19頁～20頁
- (2) 渡部洋一郎「説明的文章教材における叙述対象の多面性と批判的理解」『新しい時代のリテラシー教育』桑原隆編（2008年、東洋館出版）

〈参考文献〉

- ・田近洵一・井上尚美編『国語教育指導用語辞典』（2004年 教育出版）
- ・塚田泰彦「リテラシー教育における言語批評意識の形成」『教育学研究』70巻4号（2003年 日本教育学会編）